



1賑わいを見せた国見物産販売コーナー 2復興再生に向けた町の取り組みを説明する太田町長 34国見町を応援いただいているみなさんとの交流 56国見町応援大使の沢木さんと木住野さん

「ふるさと国見」を想う 東京くにもみ会

東京くにもみ会が11月18日、東京都千代田区のホテル・ルポール麹町で行われ、約200人が参加しました。

東京くにもみ会は、町出身者や町の応援団ツアー参加者など、首都圏在住の国見町に縁のある方々と、町から議会、町内会、商工会、農業者、地元企業など関係者が一堂に会し、交流する場として開かれ、今年で4回目の開催となります。

開会に先立ち、太田町長が「みなさんのおかげで復興の光が見えてきました」と、これまでの町に対する支援に感謝を述べるとともに、復興・再生に向けた町の取り組みについて報告。復興のシンボルとして

今年5月にオープンした道の駅国見あつかしの郷が来場者100万人を突破したことを告げると、会場からは拍手が送られました。

会場内には国見町産の食材を使った料理や商店街の自慢の名産品が並び、参加者はふるさとの味を堪能。また、国見町産の旬の農産物や道の駅オリジナル商品の販売コーナーが設けられ、ふるさとの特産品を買い求める多くの人で賑わいました。

当日は、国見町応援大使のミュージカル俳優・沢木順さんとピアニスト・木住野佳子さんも駆けつけ、沢木さんがスペシャルコンサートステージを披露して、会場を盛り上げました。

最後に、参加者全員で「ふるさと」を合唱し、ふるさと国見への想いを新たにす一日となりました。

◆全員で「ふるさと」を合唱



内谷薬師堂と薬師如来像（来訪者に説明をする内谷の人々）

内谷地区には、春日神社太々神楽とともに歴史・文化を伝える多くの遺産が残ります。西堂にある薬師堂もその一つ。戦国時代、戦いに疲れた武士がこの地に薬師堂を建立したといわれ、現在もその子孫と伝わる方々が周辺に暮らしています。耳の病にご利益があるとされ、山崎村と内谷沼の水利権で交換したとの伝説も残ります。延享5年（1748年）に建てられた現在の御堂は、平成12年に改修されたもので、本尊の薬師像も修理されながら現在に受け継がれています。

11月19日に行われた国見町郷土史研究会主催の「神楽の里内谷歴史めぐり」では、地域の歴史を地元の人々が語り、紹介していただきました。

【問い合わせ：歴史まちづくり推進室 ☎585-2967】

24	22	18	16	14	13	12	11	10	9	8	6	5	4	3	2	目次
小さな天才たち	歴まちさんぽ	まちのわだい	保健だより	くらしの情報	生涯学習つうしん	カレンダー	秋の叙勲	町内一周駅伝競走大会、ふくしま駅伝	栃木県茂木町と災害時相互応援協定締結 他	くにみつ子まつり、国見町教育フォーラム 他	税に関する作品コンクール表彰式、奨励金交付	明日へ。復興・きずなイルミネーション	平成29年度国見町表彰式	東京くにもみ会	くにみ産業祭	目次

～今月の表紙～



今年で5回目の開催を迎える「明日へ。復興・きずなイルミネーション」。道の駅国見あつかしの郷には「光のトンネル」が現れ、幻想的な光で来場者を魅了しています。

東日本大震災と原発事故からの復興・再生に取り組む国見町。希望あふれる未来に向け、確実に歩み続けるためには、町の外から応援していただいているみなさんの存在が不可欠です。

東京くにもみ会は、復興・再生の歩みをさらに加速させるため、「国見ファン」のみなさんとともに「ふるさと国見」への想いを共有し、交流・連携を深める場として、平成26年から開催しています。